

レポートの書き方について

I 形式

- レポートは word もしくは一太郎で作成し、添付ファイルで送ること。
- レポートの形式は以下のようにする。

○月○日映画と戦後史レポート

戦後社会と映画『ゴジラ』の意味するもの

■■学部 ○野△子

.....

.....

.....

.....

.....

○送付先は shinya.kougi@gmail.com

II 構想

- 対象・分野が与えられているときはその範囲で自分の書きたい主題を見つける。
例；与えられた対象；「戦後のプロ野球」
⇒絞った主題；「戦後プロ野球史における別所引き抜き事件」
- レポートの構成を考える。
如何に読者をおもしろがらせるか
例；たとえばこんなふうに・・・

- はじめに

 - 1 南海ホークス及び読売ジャイアンツの成立
 - 2 戦後プロ野球の再開と読売ジャイアンツの野望
 - 3 別所引き抜き事件の発生と経緯
 - 4 事件後の南海ホークスと読売ジャイアンツ

まとめ 別所引き抜き事件が残したもの

※レポートは出して点をもらうものではない。調べ、考え、表現するおもしろさを体験することだ。楽しんだ人が勝ち。

Ⅲ 書くときの注意

○根拠のない展開はしてはいけない。

- Ⅰ. 出典を明らかにする。何に書いてあったか。出典は巻末にあげる。
- Ⅱ. 文章中に他の文献から引用するときには、「 」で引用箇所を示し、注をつけて番号を振り、巻末に列挙する。
- Ⅲ. 写真や画像も同様である。
- Ⅳ. 他の文献やサイト記事の要約は剽窃と同様である。

●引用してよいもの

- ①出版されている図書
- ②雑誌記事
- ③学術論文（学会誌、大学紀要、学術雑誌）

●ホームページ、ブログなどからの転載はもちろん、引用は基本的にダメ

理由①責任と信頼の不在

理由②内容が浅い

●web上のもので引用してよいもの

- ①公的機関などが公開している資料
- ②編集責任の確かな史資料集
- ③PDF化された論文
- ④デジタルアーカイブに収録された文献、史料
- ⑤その他引用するに足る質のもの

●とは言え引用してはいけないもの

- ①質の低い論文
- ②著作権が開放されていない写真、図画など

Ⅳ. 引用するというのと、剽窃をすることとはちがう。

※引用；他者の文言ないしデータを引き、その上に自分の見解を述べる。

※剽窃；他者の文言ないしデータを自分の見解のごとく記述する。

※剽窃まがい；他者の文言ないしデータを引くが、自分の見解は書かない。

●自分の文と引用は主従関係である。引用は10～15%、20%を超えないこと。

●以下の例を参考にして注意しよう

剽窃の実例

戦争が終わり、昭和20年（1945）、神宮で全早大対全慶大戦が、**プロ野球**も11月23日に東西対抗戦が行われた。
翌昭和21年（1946）、
学生野球、社会人野球、**プロ野球**が待望の復活
既存の6チーム（グレートリング（旧南海）、巨人、大阪、阪急、中部日本（旧名古屋）、パシフィック（旧台東京））に加え、
セネターズとゴールドスターを加えた8チームにより、
株式会社形式で連盟が再結成された。
昭和23年（1948）には、横浜ゲーリック球場（横浜スタジアム）で、



プロ野球の初ナイター戦が行われた。

昭和23年(1949)には、サンフランシスコ・シールズ(3A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして来日したりして、

プロ野球は益々盛んになっていく。

太平洋戦争が終わった1945年すぐにプロ野球は活動を再開し、11月23日に明治神宮野球場で東西対抗戦が行われたのを皮切りに試合が行われた

戦前まで、野球は「学生の趣味」であるとの考えが一般的であり、プロ野球選手とは「子供の趣味を大人になっても続け生計の手段としてしまう人々」として、(名声や子供の憧れの対象としてはともかく)一般の社会人と比べて侮蔑される存在であった。

また紙不足なため用紙割当の制限を受けていた新聞各社が用紙の割当を増やすためにスポーツ新聞が相次ぎ、ラジオ放送でも空き時間をうめるためにプロ野球を用いるようになった。

人気選手も登場し軽視されていた戦前とは一転して戦後の苦難のなかの数少ない娯楽として人気急上昇した。

これらの結果としてプロ野球は一大レジャー企業として発展した。」

参照したサイト

誤植のまま

元ネタ1

戦争が終わり、昭和20年(1945)、神宮で全早大対全慶大戦が、プロ野球も11月23日に東西対抗戦が行われました。

そして、翌昭和21年(1946)、

学生野球、社会人野球、プロ野球が待望の復活!

既存の6チーム(グレートリング(旧南海)、巨人、大阪、阪急、中部日本(旧名古屋)、

パシフィック(旧台東京))に加え、

セネターズとゴールドスターを加えた8チームにより、

株式会社形式で連盟が再結成されました。

昭和23年(1948)には、横浜ゲーリック球場(横浜スタジアム)で、プロ野球の初ナイター戦が行われたり、

昭和23年(1949)には、サンフランシスコ・シールズ(3A)が戦後初のアメリカプロ野球チームとして来日したり、

プロ野球は益々盛んになっていきます。

※「日本プロ野球の歴史」というブログ

<http://pro-baseball-history.seesaa.net/article/105931487.html>

戦前まで、野球は「学生の趣味」であるとの考えが一般的であり[2]、プロ野球選手とは「子供の趣味を大人になっても続け生計の手段としてしまう人々」として、（名声や子供の憧れの対象としてはともかく）一般の社会人と比べて侮蔑される存在であった。しかし、戦後の日本を主導統治した連合軍最高司令官総司令部（以下 GHQ）、特にその主軸であった「メジャーリーグベースボールの本場」アメリカ合衆国サイドにはそのような方針や感情はなく、例えばそれまでは明治天皇を奉った明治神宮外苑の一角にあるがため特に神聖視されていた明治神宮野球場にて、上記のように蔑視されていたプロ野球の興行での使用許可[3]が下りるなど状況は一変する。早々に許可が下りた背景には GHQ サイドの「敗戦下の日本国民に娯楽を与える」という方針との合致が考えられる。

1947 年のニックネーム導入、1948 年のフランチャイズ制仮執行と、アメリカ合衆国・メジャーリーグベースボールに倣った活動も行われた。間接的にも紙が不足していたため占領軍当局からの用紙割り当ての制限を受けていた新聞各社が刊行許可を得て用紙の割り当てを増やすためにスポーツ新聞が相次いで創刊され[4]、戦前はほとんどなかったラジオ中継も、民間情報教育局から放送の空き時間をなくすように指示された NHK が空き時間を埋める題材としてプロ野球を用いる[5]など大きな影響をもたらした。

「赤バット」の川上哲治、「青バット」の太下弘、「物干し竿」の藤村富美男ら人気選手の出現もあり、蔑視されていた戦前とは一転して、戦後の苦難にあえぐ国民の数少ない娯楽として、人気が急上昇したのである。

※ Wikipedia「プロ野球再編問題（1949 年）」

http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%97%E3%83%AD%E9%87%8E%E7%90%83%E5%86%8D%E7%B7%A8%E5%95%8F%E9%A1%8C_%281949%E5%B9%B4%29



パクリは
泥棒